

下関北九州道路に係る環境影響評価準備書に対する知事意見の概要

項目	主な意見
【全体的事項】	
	○既存の周辺道路も含んだ計画交通量を的確に予測し、将来の道路ネットワーク全体における環境負荷の低減に努めること ○評価書は誤解が生じないよう分かりやすい記載に努めること ○事後調査や環境監視の実施に当たっては、実施計画を作成するとともに、その結果を、工事中も含め適切な頻度で公表すること ○地域住民等に対し丁寧な説明を行い、相互理解の促進に努めること
【個別的事項】	
大 環 境	○自動車の走行に係る窒素酸化物、騒音等の予測に当たっては、適切な計画交通量を採用すること ○建設機械の稼働に係る粉じん等について、現況値を正確に把握すること
水環境・水生生物	○水の濁りを防止するため、最新の知見等を採用した保全措置を講ずること ○事業実施に伴う藻場の変化等について、環境監視の実施を検討すること ○スナメリに対する影響の予測には不確実性が残るため、事後調査の結果影響が認められた場合は適切な保全措置を講ずること
陸 域 動 物	○彦島福浦町金比羅神社社叢等は多様な鳥類が南へ渡る起点となっていることから、環境監視の実施を検討すること
陸 生 植 物	○彦島福浦町金比羅神社社叢の生育環境が日射量の変化等により質的变化が生じないこと等を評価書で詳細に示すこと
景 観	○橋梁を対岸から見た眺望景観にも配慮し、新たな関門景観のシンボルとなるよう検討すること
廃棄物等	○発生抑制、最終処分量の削減等に努めること
温室効果ガス等	○温室効果ガスの排出による環境への負荷を低減するため、最新の知見や技術等の活用に努め続けること